教育委員会だより －学（まなぶ）－

（８月号）

７月 26 日、パリオリンピックがフランスで開幕しました。４年に一度のスポーツの祭典、（今年は東京オリンピックから３年ですが）出場する全てのアスリートが全力を出し、その活躍を見せてくれることでしょう。愛知県からも多くの選手が出場していて、応援に力が入ります。彼らの多くは、子どものころにその競技と出会ったのではないでしょうか。もしかしたら中学校や高校の部活で、ということもあるかもしれません。

今、子どもたちをとりまくスポーツの環境は年々厳しいものになっているように感じます。スポーツに適した場所がないこと、指導者の少なさ…また、昨今は猛暑の影響により夏の運動が制限されてしまっています。マイナー競技をやりたいと思っても、専門的な教室に通うのに遠くまで通ったりしなければなりません。余裕のない現代、親は忙しく、子どもの「やりたい！」という気持ちにすぐに対応できない場合もあります。「体験格差」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。経済環境や家庭環境によって、学校以外で得られる体験機会に格差ができてしまうことです。このままではこの格差がどんどん開いていってしまうのではないかと懸念されています。ボールを使った種目やスケートボード、オリンピックの新競技となったブレイクダンスなど、あらゆるスポーツが、公園や道端で簡単にできるものではなくなってしまいました。走ることすら場所や時間を考えなければいけません。本来なら学校の部活動などで少しでも格差を埋められるとよいのでしょうが、様々な要因から簡単ではないのが現状です。経済的な問題など、大人の都合で子どもの可能性を潰してしまうのは大変もったいないことだと思います。できることなら市のイベントなどで、子どもだけで参加しやすいスポーツ大会を開催したり、器具や施設の貸し出し、プロ講師を招いての体験会を催すなど、子どもたちが様々なスポーツに触れる機会が生まれるとよいのではないでしょうか。

また、8 月 28 日よりパラリンピックが開催されます。オリンピズムの根本原則の一つに、「スポーツを行うことは人権の一つである。すべての個人はいかなる種類の差別もなく、オリンピック精神によりスポーツを行う機会を与えられなければならず、それには、友情、連帯そしてフェアプレーの精神に基づく相互理解が求められる」というものがあります。本来の意味からはとらえかたが少し違うでしょうが、スポーツを行うのは人権の一つ、というところで、このようなことを考えてみました。

市内でも、竜北中ハンドボール部を始め、様々な分野で知立市の小中学生が全国で活躍しています。知立市出身のオリンピック選手といえば陸上の鈴木久嗣さんがいらっしゃいますが、もしかしたら４年後８年後、オリンピックで活躍する知立っ子が見られるかもしれません。今オリンピックを見て感動している子どもたち、その競技をやってみたいと思う気持ちを後押ししてあげたい。そのためには市をあげて子どもたちのスポーツ環境を整えていく必要があると強く感じました。

伊藤　沙織　教育委員